



10 2024

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪高松大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700 (代表) TEL (06) 6946-3223 (直通) FAX (06) 6946-3224 (直通) E-mail: jho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。(無料) ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 教区報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

☆ 平和旬間の報告 司牧者からこの一冊 ☆ カトリック学校教員養成会 青年と子どもとの錬成会 ☆ 広報委員会へのEメール: kyokuhou@osk.catholic.jp

(2,3画) ☆ 霊における会話(新福音化委員会) (4画) ☆ ダイヤモンド祝お祝いイスマエル神父(坂田教区) (5画) ☆ ヒロシマ巡礼(大阪高松教区青年有志) ☆ 全国キリスト教学校人権教育研究協議会 (7画) ☆ 全国キリスト教学校人権教育研究協議会 (7画) (6画) ☆ 全国キリスト教学校人権教育研究協議会 (7画) (6画)

『教区報』原稿・資料等の締切は前々月末です。



大会に関わるリーダーとサポートスタッフとともに

全国カトリックスカウトキャンプ 全国カトリック教会に拠点を置くボーイスカウト・ガールスカウトが一同に会して、キャンプを行う全国カトリックスカウトキャンプが、鳴門海峡を望む国立淡路青少年交流の家で8月10日〜14日まで行われた。

教区納骨者および死者 祈念ミサ(大阪) 11月4日(月・祝)11時 司式: 酒井俊弘補佐司教 大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂 合同追悼ミサ(四国) 11月4日(月・祝)10時 司式: 森 一幸 神父 カトリック桜町教会納骨堂 (ミサ後) 姥ヶ池墓地墓参

今大会のテーマは『さあ、ともに漕ぎ出そう~新しい海原へ』。前田万葉大司教がモットーとして掲げる「しかし、お言葉ですから、綱を降ろしてみましよう(ルカ5・5)」と海に囲まれた淡路島のイメージをヒントにこのテーマが提案された。参加スカウトは、国内では、北は北海道から、西は

大会2日目、日曜日の夜に野外で行われた全体ミサは、前田大司教が司式し、これまで25年間スカウト担当であった梅村昌弘司教(横浜教区)と交代で新たに担当司教となる、アンドレア・レンボ司教(東京教区)他6人の司祭が共同司式を行った。平日早朝6時のミサにも多くのスカウトが参加して、朝と夕には鐘の音とともにアンジェラスの祈りが唱えられるなど、教会の外なのに神さまの香りがあふれる5日間であった。また、イタリア出身のアンドレア司教が、わかりやすくキリスト教美術を解説する大塚美術館の鑑賞ツアーやカッター(漕艇)研修など淡路島ならではの体験も好評であった。5日連続の晴天に恵まれ、参加者は日に焼けはしたが、満たされたようすでバスに乗り込んだ。(文 教区スカウト 前担当司祭 竹延真治)

平和旬間報告(和泉教会) 過去の歴史を学び 戦争について学ぼう! ~徳島大空襲について~



徳島大空襲の説明を受ける参加者

和泉教会では、平和旬間行事を過去の歴史と戦争について学び、知ることをテーマとした。「もつと四国のことを知りたい」というのが出発点。カトリック大阪高松大司教区になったのに、四国のことはぜんぜん知らなかった。そこで、徳島県であれば行けるかも? と思い、徳島での戦争について調べると「徳島大空襲」にヒットした。調べてみると、徳島県立博物館が資料を提供していることが分かった。問い合わせると、徳島大空襲の史跡を案内してくださることになった。6月22日、教会を朝7時に出発して車3台(参加者19人)で徳島に向かった。学芸員は素晴らしい資料を整えて、史跡と博物館を案内してくださった。その後、徳島教会の方々と交流して、とても有意義な1日を過ごすことができた。史跡を案内いただいた時の様子をビデオで撮影し、それを編集して8月11日に上映会と報告会を行った。最後に参加者25人からのメッセージで祈りの花束を作った。(文 社会活動委員会 新田良子)

外国人が暮らしやすい社会をめざして! 各国料理の出店・歌や踊りのステージ INTERNATIONAL DAY 2024 ~外国人が暮らしやすい社会は 日本人にも暮らしやすい~ A society where foreign residents can live easily is also a society where Japanese people can live easily. 10.20 Sun 12:30~16:00 カテドラル駐車場 Catholic Tamatsukuri Church Parking Area 午前中: 各教派で礼拝

カトリック大阪高松大司教区 典礼研修会 準秘跡と信心業 祝福、奉獻、祓魔式、葬儀、ロザリオなど 講師: 酒井俊弘 司教 2024年10月27日(日曜日)14時~ サクラファミリア (カトリック大阪梅田教会) 聖堂にて 主催: カトリック大阪高松大司教区 典礼委員会

大阪のカトリック病院 ガラシア病院 特徴的な医療 ホスピス・糖尿病内科 リハビリ・神経内科 肝臓内科・循環器内科 医療法人ガラシア会 理事長 前田万葉 大司教 チャプレン 松本信愛 神父 看護士 募集中 〒562-8567 箕面市粟生間谷西 6-14-1 ☎072-729-2345 医療法人ガラシア会

平和旬間 2024 - 10 Days for Peace
いまこそ平和を Peace, now
苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう
Listen&respond to the sufferers

平和行事への感謝と励まし 大司教・枢機卿 前田万葉

八月や平和旬間永遠にあれ 大阪高松大司教区内のほとんどの教会で、それぞれ工夫を凝らしながら、平和のために祈り考え行動を伴った取り組みが行われたことに、心から感謝と敬意を表します。各教会での平和活動は、平和の大切さを再認識させ、希望と勇気を与えました。とくに、戦争体験者の証言や子どもたちの参加は、未来への大切なメッセージになったことでしょう。「戦争は終わらない」とか「平和は訪れない」といった悲観的なそして困難な状況の中でも、平和を願い行動する姿勢は素晴らしいことです。この平和への絶え間ない姿勢さえ続けば、平和への信望愛が実を結び、必ず平和な世界が訪れることを堅く信じています。

◆**姫路西ブロック** 8/10(土) 5教会(網干・たつの・飾磨・相生・赤穂)の合同開催で、ホルヘ・ソーザ神父から、出身地・ニカラグアの暴力が飛び交う複雑な内情についての講話をいただいた。身近にある抑圧や憎しみ等も暴力であり、解決のためには祈りが欠かせないと伝えられた。戦争体験者から戦時中や終戦後の体験が話され、違う小教区の方との交流の時となった。

◆**姫路** 8/11(日) ミサ後、「平和を祈ろう」のテーマで、林裕美子さんの「詩と歌で綴るコンサート」を実施。アヴェ・マリア(グレゴリオ聖歌)、平和の祈り(高田三郎)他を、「平和旬間とは」を理解しながら味わった。

◆**仁豊野** 8/4(日) 平和旬間の趣旨文を読み合わせ、「地上の平和」のDVDを視聴した。無関心にならず、真実を知ること、相互の信頼関係が大切だと知った。ベトナム人信徒のために母国語での記載など配慮が必要だと思った。

◆**佐用** 8/6、8/9の原爆投下時刻と8/15(木)の正午に祈りとともに、教会の鐘を鳴らした。8/15には聖母被昇天ミサに続き、世界各地の民主化運動に多大な影響を与えたジーン・シャープ著『独裁体制から民主主義へ』の内容の分かち合いをし、「非暴力という武器」を知った。教会の鐘を鳴らすことも平和アピールの一つだと思ふ。

◆**豊岡** 8/4(日) 「ともに語ろう!世界平和への誓いを!」のテーマで。DVD「お父さんへの千羽鶴」の鑑賞と平和についての分かち合いをした。精神的トラウマがあり思い出したくない、語りたくない人もあるので、戦争の傷跡は消えることがないと感じた。

◆**姫路東ブロック** (加古川・西脇) 8/11(日) 「お互いを尊重し合い、助け合い、皆が安心して暮らせる世界を目指して努力しよう!」のテーマで平和祈願ミサを行い、「平和への祈りカード」を作成し奉納。うちわの持ち寄りをして支援金と共に釜ヶ崎「出会いの家」へ贈った。難民移住者支援のシナビスグッズの販売をした。

◆**垂水** 8/11(日) 映画『ワタシタチハニンゲンド』を通して、日本人の差別意識の現実を学ぶ。現状を知り、問題意識を持つことが大切。入管法が改悪された今こそ、私たちの態度が大切な時期だと監督は話された。国の在り方を左右する選挙の大切さを痛感。

◆**洲本** 8/4(日) 平和祈願ミサの中で、平和の祈りを「平和の鳩」に記し、共同祈願として捧げた。子どもたちによる絵本の朗読とプレゼンテーション(ウクライナ・ガザの現状、広島への修学旅行で学んだこと)を行った。子どもたちの平和への思いを受け継いでいきたい。

◆**たかとり** 8/11(日) 講演者(奈良雅美さん、鋤柄利佳さん)が所属する「アジア女性自立プロジェクト」が取り組む『顔の見える』フェアトレードについて、講演とワークショップ(ネパールの糸でコースター作り)を実施。外国人信徒にも平和旬間の意義が定着することを願う。

◆**北須磨** 8/4(日) ミサ後、映画『ひろしま』上映会を実施。戦争の悲惨さ、平和の大切さを心に焼き付けた。地域に向けて掲示板に掲載した。多くの方が参加して下さったことで勇気をいただいた。

◆**兵庫** 8/4(日) 古巣 警 神父(長崎教区)が体験された感動実話(「平和のために働く人は辛い」を病院のベッドの上で実践された「ミネヤン」という方との出会い)を皆で読み、分かち合いをした。戦争とは無関係の世界でも平和をもたらすことのできる知恵を学んだ。

◆**鈴蘭台** 8/11(日) 映画「しかたなかったと言うてはいかんです」(九州大学 生体解剖事件を題材)について説明し、視聴した。戦時下でゆがめられた人間性と戦争の悲惨さについて分かち合った。戦争では被害者にも加害者にもなりうることを決して忘れてはいけない。「何もなかったという罪」についても考えさせられた。

◆**三田** 8/11(日) 幼い頃の戦争体験を語っていただく会。戦争を知らない世代が平和の尊さを考える機会とした。戦争の記憶がある信徒が少なくなっていく今日、貴重な話を聴けて良かった。

◆**神戸中央** 8/11(日) 平和祈願ミサで「平和の祈り」の折り鶴を奉納。「フィリピンスタディツアーの体験を通して平和を考える」(河村弥生さんの話)。8/18(日) 外国にルーツのある方・青年・子どもたちは、『みんな地球人』の動画鑑賞を通して、身近にある「差別」や平和について考えるきっかけになった。

◆**六甲** 8/11(日) アフリカのルワンダで義肢製作所を開き、多くの障がい者に無償で義足や装具・杖などを提供してきたルダシングワ真美さんとパートナーのガテラさんに活動について講演していただいた。

◆**住吉** 「女性の視点で災害をとらえる」のテーマで、8/6(火) 開幕ミサ・聖体顕示。8/11(日) 講演会。講師は、NPO法人「女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ」の正井禮子さん。8/15(木) 被昇天ミサ。

◆**芦屋** 8/4(日) ドキュメンタリー映画『豪日にかける愛の鉄道』上映会を開催。第二次世界大戦時、日本軍に虐待され日本への憎悪が根深かったオーストラリア。そこで、「愛の鉄道」を日本へ敷こう」と立ち上がったトニー・グリーン神父の物語。教会外の方も来られ、発信の大切さを感じた。

◆**夙川** 8/11(日) 平和祈願ミサ後、講演会「パレスチナ」(講師:水口隆司さん)を実施。終わりの見えないこの紛争を正しく理解し、私たちに何ができるかを考える機会となった。平和祈願のメッセージカード(ピースツリー)を正門横のモミの木に展示した。

◆**甲子園** 8/11(日) 当教会が清拭用の布を届けているガラシア病院で奉仕されている Sr.石川(大阪聖ヨゼフ宣教修道女会)に、病院での活動内容を伺った。祈り、布教、感謝を大切にしながらホスピスなどで奉仕されていることを知り、改めて感謝の気持ちを持った。

◆**仁川** 8/6、8/9の原爆忌に鐘を鳴らし、聖堂で祈った。8/11(日)は1部:「戦争の悲惨さ・苦しみ」のテーマでウクライナ・ガザの実態を映像で視聴。2部:平和祈願国際ミサ。3部:「真の平和をめざして」のテーマで「霊における対話」を実施。

◆**宝塚** 8/11(日) 平和旬間祈念講演で、シヨファイエの幼きイエズス修道会のシスターに、美しい過去も未来の希望も奪われ、心身の後遺症にも苦しまれた幼少時の被爆体験を話していただいた。心の持ち方で豊かな人生を送られるという言葉に希望を感じた。

◆**伊丹** 8/11(日) NPO法人「パレスチナ子どものキャンペーン」会員:嶋田かおりさんにより、「平和への願い・ガザとイスラエル」のテーマで、資料と映像を交えて講演していただいた。沈黙せず関心を持ち続けたい。

◆**園田** 8/4(日) 「紙芝居文化の会」の方をお招きして紙芝居をしていただいた。読み手は「紙芝居文化の会」の方、ベトナム人シスター、信徒、日曜学校の子どもたち、主任司祭。一つはベトナム語でも行った。大人も子どもも平和の大切さを実感した。

◆**尼崎** 8/11(日) 平和祈願ミサ①平和に関する祈りとロザリオ ②平和に関する共同祈願 ③子どもたちによる平和関連の展示④子どもたちによる平和に関する聖歌の合唱等、心を合わせて祈ることのパワーを感じた。

◆**日生中央** 8/11(日) 平和祈願ミサ後、①「キリストの平和」を手話で合唱 ②「戦争語彙集」を朗読 ③絵本「わたしの『やめて』」をスライド上映・朗読 ④平和祈願メッセージを葉に記載。8月初めから各家庭やグループで平和のための祈りをし、祈りの花束を作成し、25日(日)のミサで奉納した。

◆**池田** 8/4(日) 平和祈願ミサ後、講演会(講師:西口信幸さん)で、イスラエル・パレスチナ・ガザ・ハマスについて歴史と現状に映像を交えた講演。講演会後に質問と分かち合いを行った。ニュースの情報だけを鵜呑みにしては危険だと思った。

◆**箕面** 8/4(日) 「典礼聖歌から気づくこと、私たちができること」がテーマ。現在起こっている戦争や戦闘の原因の一つに、国や民族の自己中心的な考えや行動があり、それを回避するには、身近なところから相手の立場や状況を理解し寄り添うことが大切だと、典礼聖歌からも学ぶことができた。

◆**高槻** 7/19~8/4 8/4(日)はカフェを実施。教皇ヨハネ・パウロ二世の平和アピールをベースに、分かち合った。カフェで交流を深め、信徒の思いを共有できた。平和のためにまず政治(社会)に関心を持ち、国で働く人の資質を見極め、リーダーを選ぶことが大切だと思った。

◆**茨木** 8/11(日) DVD『カリタスジャパンと私たち』(約15分)の上映後、平和祈願ミサ。カリタスジャパンが国際カリタスと連携し、堅固な信仰を土台として地道な活動をしていることが分かった。コロナ禍でしばらく休止していた活動を再開できた。

◆**千里ニュータウン** 「心を平和に」のテーマで、平和に関する絵本や書籍の紹介、動画鑑賞をした。ミサ後、平和を願いながら皆で「手のひらを太陽に」「故郷」「夕焼け小焼け」を歌い、子どもも大人も平和について考えた。

◆吹田 8/11(日)「平和を願う祈り」に役立つスライドを見ながら心を合わせて祈った。戦争の問題だけでなく、家庭や環境の問題も意識して祈るよう企画した。普段一緒に祈ることが少ない人たちとロザリオの祈りができた。平和をつくるには、一人ひとりの思いやる心が大切だと感じた。



◆大阪梅田 8/4(日)紙芝居『てんぐのけんか』を子どもたちが読み聞かせ。8/9(金)はテゼの祈り。8/11(日)はDVD「100ばんめのサル」(日本語)、ナイジェリア出身信者のインタビュー動画鑑賞(英語)。今後は、各言語グループが共有できる形を取り入れたい。



◆関目 8/11(日)は、能登震災地に行かれたSr.大橋のお話を聞いた。マスメディアの情報とは異なり、現状を伺うことで心を寄せることができた。苦しむ人びとに耳を傾け、祈りを忘れないようにしたい。



◆門真 8/18(日)日本、ベトナム、フィリピンの国際共同ミサで、共同祈願は3か国語で行い、ミサ後は分かち合いのバーベキューを行った。



◆大東 8/11(日)ミャンマーからの難民マウン・ミョウトン・アウンさんに、母国のことやご自身の困難な状況を語っていただき、「私たちができること」を続けて取り組んでいく。彼との関わりも4年目を迎え、「顔も知っている私の隣人」として、平和旬間が繋がり合う場となっている。



◆枚方 8/12(月)「祈りの集い」テゼの祈り形式で、永井隆博士の言葉とテゼの歌と「うたといのり」を交えて行った。信徒各自ロザリオレーをしたことも良かった。「祈りの集い」を毎年行いたい。



◆香里 8/11(日)「今こそ、日本国憲法に基づいた平和外交を」ということで、DVD「しではら」を鑑賞し、分かち合いをした。アメリカに押し付けられた憲法ではないことを知った。日本は軍備ではなく、もっと外交の力で行けることはないのかという声が出た。



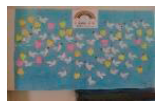
◆大阪田辺 8/11(日)平和構築のためにDVD『おかあさんの木』を鑑賞。太平洋戦争では、すべての国民が総動員されたがこのような不条理な歴史を繰り返してはいけない。戦争になりそうな時、反対の声をあげられる社会にしていきたい。



◆藤井寺 8/11(日)信徒各自が平和の祈りを短冊に書いて祭壇に飾った。平和祈願ミサ後、ポートピーブルのヨアキムさんから「私の戦争体験」の講演を聞いた。多くのベトナムの方が来られるので言葉の壁を越えて、ベトナムの事を知る必要があると思う。



◆堺 8/11(日)平和祈願ミサ後にDVD「ヒロシマに一番電車が走った」を鑑賞。戦争を起こさないためには、「違う意見も尊重することが大切で、祈るだけでなく行動することが大切。一人の行動する姿が周りを変えていく」という言葉が心に響いた。

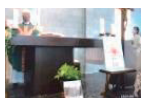


◆泉北 8/11(日)「風化させてはいけない記憶を若い世代へ」のテーマで、ミサ後DVD「夏服の少女たちヒロシマ・昭和20年8月6日」の上映を行った。改めて戦争の恐ろしさを感じ、そのことを伝え続けて行動しなければいけないと思った。



◆金剛 8/11(日)ミサ後、「手作り平和学習会」を実施。社活委員会が準備した資料を参加者が輪読し、意見交換した。《資料》司教協議会会長談話、詩編85、正義と平和、日本国憲法前文、与謝野晶子「君死にたまたうことなかれ」、峠三吉の原爆詩集「にんげんをかえせ」等。

◆八尾 8/11(日)平和の尊さを伝えた。ベトナムの方に、「平和旬間」の意味にルビをふって配布した。今も戦争や紛争で多くの被害者が生まれ、過去の教訓が生かされていない現実に深い悲しみをおぼえる。平和の実現のために行動したい。



◆枚岡 8/4(日)平和祈願ミサで千羽鶴を奉納。ミサ後、黒澤久夫さん(八尾教会信徒)による講演。テーマは「釜ヶ崎支援の流れと今後の課題」。黒澤さんの長年の奉仕活動と、義務感での活動ではなく、「神のみ旨を果たす喜び」という言葉に感銘を受けた。



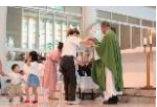
◆なみはや 8/11(日)「いまこそ世界平和を！教会に集まる仲間とともに」として、ミサ後、仲間とともに考え祈った。英語、中国語、ベトナム語、日本語のメッセージと通訳で「共に」を体現した。音楽の力を感じた。「平和を求める祈り」をして茶話会を実施。



◆住之江 8/11(日)「戦争が生み出す病～心が壊れること」とはのテーマで、戦争で生きて帰ってきても心に深い傷を負い、さまざまな依存症になる負の連鎖の体験談を聞いた。教会が重荷を負う人の心のよりどころになることができれば良いと思った。



◆玉造 8/4(日)ミサ後、「ハイチのマザーテレサ」を上映。Sr.須藤昭子とSr.岡崎茂子が貧困国で住民の自立のために貢献していることを紹介。平和への思いのカードを展示。ミサでは、折り鶴アートを奉納。



◆生野 8/11(日)平和祈願ミサで、平和のメッセージカードを奉納。ミサ後、関西合唱団のコンサート。日本の歌と韓国の歌を同時に歌うチャレンジもあり、音楽・歌は万国共通で分かり合えるものだと感じた。



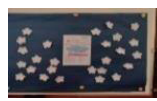
◆紀泉ブロック(岬・泉南・紀の川) 8/11(日)平和祈願ミサで祈りの折り鶴を奉納。ミサ後、「平和の担い手になるために」のテーマで、講演会「モザンビーク、いのちの水プロジェクトから見えるもの」を行った。講師はイポリト・ヴィダ神父。モザンビークの平和には程遠い悲惨な状況を聞いた。



◆岸和田 8/11(日)「イスラエル・パレスチナの歴史と現状の動画を鑑賞し、平和のために祈りを捧げた。過去の戦争の振り返りだけでなく、現在の紛争や対立を通して平和を考えることも大切だと気づいた。「戦いを支援する国がなくなりますように」という祈りもあった。



◆和泉 8/11(日)四国のことを知るために徳島教会と交流し、四国での戦争について学んだ。徳島大空襲フィールドワーク報告(DVD鑑賞と参加者からの報告)。戦争は一旦始まってしまうと終わりが見えないので「戦争は絶対ダメ」と強く思った。祈りの花束も作成。



◆貝塚 8/4(日)世界各地の戦争による危機や貧困に苦しむ人びとの現状を映像によって知り、現状から解放されるように、災禍で苦しむ人びとに必要なものを支援したいという思いで企画した。



◆泉佐野 8/11(日)軍事化の為の軍事費を世界で苦しんでいる人に使えたら平和が実現するので、世界の宝・憲法9条を大切にしたい。高齢化社会で、声を掛け合い思いやりで支え合うことを祈る。シナピスの活動内容に関心を持ってほしい。一過性にならないように折り鶴を聖堂内に飾った。



◆熊取 8/4(日)戦禍の中で命の危険にさらされ、悲惨な生活を強いられている子どもたちからのメッセージを聞き、平和の大切さを再認識した。かつての敗戦から復興した日本だからこそ、二度と戦禍を繰り返してはならないという思いを共有できた。



◆和歌山紀北(屋形町・古屋・今福・海南) 8/11(日)平和祈願ミサ後、「平和の集い」で、生活の中から身近な平和を考える。携帯電話、流通、食糧・医療等の観点から、世界的視野での労働搾取・環境汚染などの現状を知り、平和について考える。



◆新宮 8/1~8/31まで主日と毎日のミサで「核兵器のない世界実現のために」の祈りを捧げた。8/15(木)の平和祈願ミサで全世界の平和を祈った。

◆桜町 8/11(日)主日ミサを「平和祈願ミサ」とし、特に国内被災地・ウクライナ・イスラエル・パレスチナのために祈りを捧げた。ミサ後にミャンマー人の結婚式があり、平和な日本にいる私たちのすぐ近くに、祖国の混乱のために悲しみ・苦しみの最中にある人の存在を感じた。



◆番町 8/2(金)桜町・番町合同初金ミサ後、8/11(日)集会祭儀後、祈り、歌い、平和について考えた。教皇ヨハネ・パウロ二世の平和メッセージを読み、教会として皆で平和を祈る時を作った。



◆伊予三島 8/11(日)平和の祈りを短冊に書き、オリーブの枝に付けて祈った。平和への思いを明確にして、人類への加害行為を止める働きかけをする必要を感じた。フィリピンの人たちと心を合わせて世界平和のための祈りができた。



◆徳島 8/12(月)、8/13(火)1日目は阿波踊りを体験し、参加者青年たちの交流を深めた。2日目は「ウクライナからの避難民青年からのメッセージ」をテーマに、平和講演会・霊的対話による分かち合い・平和祈願ミサを捧げた。



◆松山・道後 8/4(日)2年前から当教会で始めたミャンマー募金に、信徒や修道会から募金が寄せられた。ミャンマーのドミニコ会を通じて、ジャングルで避難生活を送っている人びとを支援し、ジャングルに仮設の学校を作り運営していること等を報告した。軍事政権下で苦しんでいる人のために具体的な行動が必要だと感じた。



◆中村 8/11(日)8/15(木)戦争で亡くなった方のためや、世界を巻き込む戦争が二度と起こらないように、また戦いを続けている国が一日も早く平和の道に導かれるようにとミサの中で祈りを捧げた。平和がいかに当たり前のことではないかと気づかされた。

◆中島町 8/11(日)平和祈願ミサ司式は松浦信行神父。絵本を使って平和への強いメッセージを聞いた。聖体拝領後にテゼの祈りの時間を持ちギター伴奏での歌は落ち着いた雰囲気良かった。



◆江ノ口 8/11(日)平和祈願ミサで各自が作成した「平和の祈り」を奉納。過去を振り返りながら、平和への願いを新たにしていこうと皆で共有したいと考えた。信仰と行動で平和を築いて行きたいと思った。



◆安芸礼拝所 8/17(土)平和祈願ミサで、お互いが神様から愛されている存在だとの説明をいただいた。戦争体験者の話を聞いて育ってきたので、若い世代にも過去の戦争の話を伝えるべきだと思う。自分と同様に他の方も大切にすべきだ。

◆赤岡礼拝所 8/11(日)平和祈願ミサで各自が作成した「平和の祈り」を奉納。マザーテレサの平和の祈りを皆で唱えた。祈るだけでは足りないという思いもあるが、ミサの中で祈ることで、平和への行動を起こす力と思いをいただいた。

暴力が生み出す負の力が世界中に蔓延し、平和が「夢物語」であるかのような社会に生きている私たちですが、今起こっている悲劇一特にウクライナやガザにおける悲惨な状況一から目をそらさず、「平和への道を歩もう」というのが今年の平和旬間のテーマでした。それぞれ工夫を凝らした各小教会からの報告が届きました。とくに今回は、初めていただく四国の教会からの報告が楽しみでした。すべての報告が出そろいましたら、「報告集」を作成して各小教会へお送りする予定です。他の小教会の活動を今後の平和活動への取り組みのヒントとしてご活用いただければ幸いです。感謝のうちに。

【プロフィール】

高山徹神父(教区)

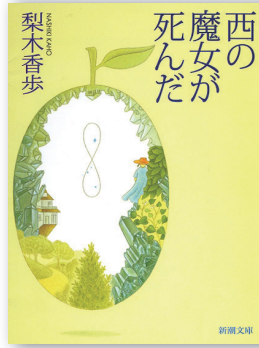


生年月日 1982年6月17日(現在42歳)

受洗年月日 1992年8月15日 亀山教会

※仙台の大学生活で、溝部脩司教様や仲間達と出会う。青森で教員を務める。

2010年4月~ カトリック高松司教館での共同生活・青少年活動と教職員業務を通して識別東日本大震災発生、年間を通じて大船渡はじめ被災地を訪問
2011年3月11日 日本カトリック神学院入学
12年4月 諏訪榮治郎司教様より司祭叙階
18年3月21日 叙階後 香川県内の小教区司牧幼稚園チャプレン
18年~ 病院チャプレン
19年~ 病院長チャプレン
21年~ 教諭師
23年~ シノドスチーム
24年 丸亀教会・善通寺教会・小豆島教会担当丸亀聖母・善通寺聖母・観音寺聖母チャプレン



『西の魔女が死んだ』(梨木香歩著、新潮文庫、税込649円)

高山徹神父からこの一冊

「西の魔女が死んだ」(梨木香歩著、新潮文庫、税込649円)今回は、高山徹神父が担当。



2008年に映画化された物語の原作です。主人公の少女まいは、学校に通えなくなっていました。母方のイギリス人の祖母のもとでひと月ほど過ごし、力づけられていくことになり。森の中で自給自足する祖母の生活は、穏やかで、そして、生活の知恵に満ちたものでした。畑の手入れをし、野イチゴでジャムを作り、鶏の世話をし、布団のシーツを手で洗う等……。

祖母は、昔から存在する賢者のような人を「魔女」にたとえて、まいに「魔女」修行の手ほどきをします。それは、祖母から孫に心から伝えたい生きる力、人生の知恵の数々でした。規則正しい生活をすることを強調し、そして、意志の力をつけるようにと祖母は手ほどきをします。「いちばん大切なのは、意志の力。自分で決める力、自分

で決めたことをやり遂げる力です」等と言う、まいの祖母の言葉はシンプルで深いものです。この言葉を、自分自身も心に響かせながら、特にさまざまな場面から、青少年に関わる時に大切にしたいと思っています。自分自身を大切にできるように、そして、自分自身のいたでいる賜物を十全にいかすように。

次回はブラザー八木信彦(オブレート会)です。

想いのバトン



プロフィール

1994年 三代目 桂春団治に入門
初舞台
2007年 「二代目 桂春蝶 追善興行」
2009年 なにわ芸術祭奨励賞受賞
9月27日 南座 なにわ芸術祭審査員特別賞受賞
これより、全国20カ所で開催。
2009年 繁昌亭大賞爆笑賞受賞

私のライフワークとして、命の大切さを伝える「桂春蝶の落語で伝えたい想い」というシリーズがございます。その中でも公演回数が多い「ニライカナイで逢いましょう」ひめゆり学徒隊秘抄録」という一席は、昭和20年の沖縄戦を題材とした斬新で、戦争体験者からの取材証言を元に創作いたしました。

芦屋キリスト教協議会(CCC)と神戸バイブルハウス(クリスチャンセンター)と協働で10月13日(日)落語鑑賞会が行われる。そこで桂春蝶さんに寄稿していただいた。

平和をテーマとした「いのちの落語」



ニライカナイで逢いましょう ~ひめゆり学徒隊秘抄録
1945年3月、米軍が沖縄に上陸し約20万人が犠牲になった沖縄戦。同年5月攻撃を避けるためガマ(自然壕)に逃げ込んだ、ひめゆり学徒隊と共に行動した看護婦長の語り。物語は展開していく。避難しながら負傷兵の看護するひめゆり学徒隊の少女たちの葛藤や夢、家族への想いを聞いた婦長。その矢先、少女たちは鉄の暴風とも言われた艦砲射撃で重症を負い、婦長は治療のために必要な水を求めガマから出てくみに駆け出す。砲弾を避けるももう逃げ切れないと思ったその時……。
■学徒隊を助けようとする婦長と婦長の夫である特攻隊員との夫婦愛も描き、重層的に史実と取材した言葉を折り込み、不条理な戦争の中でも人は何のために生き、懸命に人のために生きようとした命の尊さを、紡いだ作品。

桂春蝶公式サイトいのちの落語参考▶▶▶



体験者 川平カツさんの証言

艦砲射撃で学徒隊の仲間を亡くした川平カツさんの証言も印象的でした。「夜になると、いつもその子が夢に出てくる。私の戦争はその夢が続き限りは終わらないさ……」と、なぜか笑いながらおっしゃるので、「カツさん。悲しいお話ですが、なぜ笑いながら言われるのですか?」と私が聞くと、「春蝶さん、それは今までもずっと泣いてきたさ……もう涙は枯れてしまったね……」。

体験者 新川ハツさんの証言

元ひめゆり学徒隊員・新川ハツさんからは、集団自決するも、日本製手榴弾が不発で数回も失敗した話を伺いました。荒崎海岸で不発手榴弾を大空に掲げ、「こんな不良品で日本が勝てるわけないね」そう笑い合っただけでなく、この証言は、この戦争を語り継ぐ上で大切な証言です。

10月13日(日)
<兵庫公演> 桂春蝶
落語で伝えたい想い
「ニライカナイで逢いましょう」
~ひめゆり学徒隊秘抄録~
開演:16時(開場:15時半)
出演:桂春蝶
料金:一般予約3500円
KBH友の会会員
事前予約3000円
当日一般・会員4000円
会場:カトリック芦屋教会(芦屋市公光町5-15)
予約:078-252-1966
(神戸バイブル・ハウス)



沖繩戦体験者との交流は、この証言を語る上で心構えを作っていた。私たちがはもう語ることができなくなる日が近い、だからあなたに伝えた。心から私たちの想いを伝えて欲しい……授かった心を忘れないで、この証言を語り継いでください。
太平洋戦争の戦争遺跡で国内初の文化財指定された沖繩陸軍病院南風原壕。それに深く関わった元南風原文化センター館長・大城和喜さんとの交流は長く続いています。大城さんに「命とは何だと思えますか?」と聞くと「命は自分のものだけではない、未来の誰かのためのもの」と答えられました。『今を生きる私たちが、明るい未来を作っていくには、正しく過去と向き合わなければならぬ』私たちが戦争を学び、語り続けるのは、未来の誰かの命を守るため。
戦争体験者から託された想いのバトン、これを未来の世代に繋ぐ役割を今後も果たしてまいります。
(文 桂春蝶)

第15回カトリック学校教区教員養成会

カトリック校の使命・教員として 何ができるか



1日目、「カトリック教
育の可能性」をテーマに、
NPO法人リテックス副理
事務長の前川和裕さんよりお
話があった。教員時代の経
験をもとに、子どもたちが
一人ひとりの強みを生かせ

体験談

8月16・17日、サクラファミリアで第15回カトリック学校教員養成会が開催され、16校
28人の小中高の教員が参加した。

なぜカトリック校なの？

るよう、心に火をつけるこ
とがカトリック校の教員と
しての役割であると語っ
た。

午後には、仁川学院卒
業生の西尾かほりさんよ
り「今になって感じるカト
リック校の良さ」について
話があり、学生時代に一番
印象深かったことは「いつ
も神様は、あなたの心の中
にいる」という神父様から
のお言葉であると紹介され
た。人生で辛いことが起
こっても「自分は大丈夫。
私は一人ではない」と自己

肯定感を持って多くのこと
に挑戦できたと語り、教員
の普段からの声掛けや聖書
の言葉が、人生を生きてい
くうえでの価値観に深くつ
ながることを再確認でき
た。

カトリック校とは

2日目は、香里ヌヴェー
ル学院小学校 西村佳也副
校長より、スポンジや多機
能プレーヤーなどの商品を
例にあげながら「カトリッ
ク校が選ばれる意味」につ
いてお話があり、カトリッ



これからも子どもたちが過ごしやすい学校生活を見守る教員たち

青少年司牧委員会

青年と子どもの錬成会

たくさんの気づき

今年の青年と子どもの錬成会は8月10日～12日にヴェリタス城星学園で行われた。

コロナの影響で中断していた錬成会も昨年再開され、今年は昨年参加した子どもたちが多く来てくれたおかげで、参加者を募集開始してから約1カ月で定員である50人の申し込みが寄せられ、リーダーたちもそれがモチベーションとなり準備に励んだ。

今年のテーマは「ありのままにええねん！～神様からのプレゼント～」このテーマには人にはそれぞれ神様から与えられた素敵な性格、長所があることに気づいてほしい、そしてその素敵なものを誰かのために使ってほしいという思いが込められている。

最初は初めましての人たちばかりで、緊張していた子どもたちがたくさんいたが、運動会やスタンプラリーで班の人たちと協力するプログラムや、生活を共に過ごしたおかげで距離感も近くなり、笑顔がいっぱいの3日間となった。また今回は、自分のたくさん素敵なおところを見つけるために、自分も知らない素敵なおところに気づききっかけとなるように「ありがとうカード」というものを作った。子どもたちがそのカードにたくさんお友だちの素敵なおところを書いてくれたおかげで暖かい空間となった。

終わる頃には「また行きたい！」と言ってくれた子どもたちがたくさんいて嬉しく思った。来年以降も子どもたちがたくさん集える場所として、この「青年と子どもの錬成会」を続けていきたい。

(文 青年と子どもの錬成会 田川優香)



グループに分かれて教員として何ができるのかを話し合う

ク校の価値とは何かを考
えるきっかけとなった。
2日間を通して、3人
の講話をもとにしながら
「カトリック校の使命・教
員として何ができるか」
について分かち合いをし
た。カトリック校は安心
して過ごせる場所である
こと、教員が愛をもって
子どもたちと接する大切
さ、心の教育をしていく
必要性など活発に意見共
有がなされた。
(文 城星学園小学校
教諭 後藤七海)



お互いうちとけた子どもたち(ヴェリタス城星学園の園庭)

→「ありがとうカード」をきっかけに
自分も、ともだちも知らない素敵なおところを発見？

新福音化委員会

「霊における会話」の可能性

「霊における会話」は、参加者の思いをすべて受け止める全員参加型が特徴。テーマを全員で共有し、信仰をもとにした現実への理解と対応を行うことなど、地区の課題や小教区の今後について具体的に打ち合わせることになる。黙想や祈りが重視され、信仰の深まりを養成する中で、非常に優れた意思形成の方法。

■黙想と祈りから始まり、その後、私の思いを分かち合います。会話を繰り返す中で、共同体意識が育まれていきます。「霊における会話」は、確定した時間配分やルールに過剰に縛られたものではありません。標準的な運営の仕方はありますが、集まっている人たちの特徴、何を目的にしているか、進め方で特に尊重したいことがあるかなど、いろいろな応用をすることが勧められています。多様性を保障することが大切にされます。型にはめられていくという危険は不要です。

■いろいろな立場からの指摘や提案があるということ。これは、「お知恵拝借」の場になります。KJ法(紙片にさまざまな意見などを書き、それらを模造紙でまとめていく)で研修を体験した人たちがいるかと思えます。誰もが排除されないことは、この「霊における会話」も同様です。さまざまな人が平等に同等に参加できます。

■黙想し、祈り、その祈りを分かち合うことは、私たちクリスチャンの基本です。集いの中での共通体験は、信仰者の絆を実感し、強めることとなります。

■それぞれの人の信仰に敬意を示し合い、お互いをリスペクトする場となります。

■誰の意見が採用されるか、あるいは無視されるかはありえません。皆で神さまの願い、思いを識別するからです。決定的要素は、聖霊です。その場にいる皆が協力して聖霊の声を聞き取ろうとするわけです。

■タイのバンコクで行われたアジア大陸のシノドスでの作業文書に(2022年10月発出)、「あなたの天幕に場所を広く取りなさい」というスローガンが打ち出されました。いかにも教会的な視点や問題意識ではなく、世界の課題、地球的な問題を受け止めることが強調されました。この集いの最終文書には、FABC(アジア司教協議会連盟)で出されていた項目が挿入されました。「欠落部」とされた部分があり、それはバンコクでの集いには出ていなかった政治経済や気候、開発、人権などに触れるものでした。

シノドスが提起した「霊における会話」は私たちが養成する内容があります。次回、実際に行った地区や小教区での研修を報告します。

(シノドスチーム 吉村信夫)



イスマエル・ゴンザレス神父様 司祭在位ダイヤモンド歴を祝して



信徒の祝福に笑顔で応えるイスマエル・ゴンザレス神父

7月5日は、カトリック坂出教会主任司祭のイスマエル神父様が、叙階の恵みを受けて60年の記念日だった。6月30日教会では神父様のダイヤモンド歴を祝しての祝会が催された。

ごミサの最後に、神父様からのメッセージカードの配布に続いて、信徒からのお祝いの品、花束、有志によるお祝いの言葉などで、一同が神父様の長年のお働きに対する感謝と今後のご活躍の恵みをお捧げしました。



茶話会で挨拶するイスマエル神父

第二部は、食すお祝いでした。おみ堂出口で渡されたお菓子のプレゼントを持って、多目的ホールに集まり、手作りのケーキをカットして、茶話会で神父様への感謝の交流会となりました。

今日の御言葉にあったように、「すぐに主に従う心」を忘れず、喜びの内に日々を過ごされていると言うメッセージから、神父様の教会を良くしようとする真髓が伝わり感動しました。

坂出教会紹介

- ◆守護・ファティマの聖母
- ◆坂出市谷町1-3-24
- ◆0877-46-5094
- ◆設立年・1949年2月
- ◆信徒数190人

《教会の特色と特徴》
坂出市の中心地にあり、坂出駅南口より560m、徒歩7分の所に位置した教会です。
戦後(1947年)、坂出市に住む2人の信者は「坂出地域を敗戦の無気力から救い出すために教会と病院



玄関先のピエタ像が市民を見守る

= 丸亀教会からひと言 =

6月30日(日)ミサの中で、フィリピン人の赤ちゃんの洗礼式が行われました。両親を始め、家族や友人たちがたくさん参列し、赤ちゃんの洗礼式に立ち会い、ミサの後で多くの祝福を受け、記念写真を撮った聖堂内は明るい雰囲気です。洗礼の間、聖水を頭からかけられても、すやすやと眠ったままの強い赤ちゃんでした。
(広報委員 太田 修)



洗礼を受けた赤ちゃん

先にあるピエタ像は愛の深さを象徴し、市民とともにある愛の教会です。このあたり一帯は市民の救いのエリアと感じられ、その中心が教会となっています。

おすすめのお店

●名物「かまど」は駅前であり、お茶を飲みながらの語らいの場ともなっています。

●車で15分の所には「ところてん」の名所清水屋があり、涼しい水場です。ただ冷たさと味は夏の暑さを吹き飛ばしてくれます。

ひとりで悩まないで
~私たちに聴かせてください~
カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント相談窓口
※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時~午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。

カトリック墓地
納骨堂・納骨所
使用者募集
大阪高松教区の信者の方がお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただくほか、インターネットでもご覧いただけます。
資料請求やお問い合わせは
教区本部事務局
総務課 管理部門
☎ 06-6941-9705

広島平和巡礼

ウクライナやガザでの戦争が激化する中、かつて日本でも、戦争があったこと、いまの日本政府がどのような平和行事を行っているか、自分たちの宗教がどのように平和に向かっているかを肌で感じてもらうためコロナ禍で休止していました、中・高生ヒロシマ巡礼を再開しました。

5年ぶりの再開に、「参加者0でもしゃーないなあ、呼びかけが大切！」と思っていました。申込配布翌日には参加希望があり、今回中学1年生を中心に10人の参加者を広島に連れて行くことができました。参加者全員、最初は親に言われてしぶしぶ……、の様子でしたが、3日間という短い中でリーダーの声に耳を傾けて自分なりの平和への道を見つける一歩にはなったと感じました。



◎参加者感想

被爆した中にはアメリカや韓国の人もいるということを知りました。

韓国の方々の慰霊碑を建てるのに時間がかかりアメリカの方々の慰霊碑については建ってすらいないというのはおかしいと思いました。
高校2年生 男子

カトリック信者でなくても参加OKとのことを友達より聞きつけて参加しました。広島のこと自分なりに調べていたのですが、今まで知らなかったことを知れて、またカトリックのミサを大きな聖堂でうけたことに衝撃を覚えました。
高校2年生 男子



全国キリスト教学校人権教育研究協議会 人権教育セミナー テーマ「『…にもかかわらず』喜び、 笑い、歩む一いちのち・平和・人権」



8月16日から18日、神戸の頌栄短期大学にて開催されました。このセミナーはカトリック、プロテスタント学校の教職員、キリスト者市民が集い、フィールドワーク、講演、分科会、祈りを通して、いのちが大切にされる学校、社会の実現のために、差別や戦争と平和について学び合い、発信することを目的とし、今年で34回目を迎えます。以下参加した方の感想です。

フィールドワーク後は、ハンセン病療養所と長年関わっている沢知恵さんによる聖書研究でした。赤ちゃんの頃から療養所に行き、はいはいで見えない境界線を軽々と越えていた沢さんは今もコロナ禍などの境界線を越え、療養所の礼拝に通っておられます。翌日は浜矩子さん(同志社大学名誉教授)による「経済と人権～その表裏一体性を考える～」と題しての講演で「真の経済活動は必ず人を幸せにしなければならない。それが経済合理性に合うという意味です」と力強くお話しくださいました。そして「キリスト教学校に求められているものは？」との質問に「あらゆる痛みに対してもらい泣きすることができる人になってください。みなさま自身が抱かされている信仰を生徒たちに注ぎ込んでください」と即答され、心が揺さぶられました。その後の6つの分科会では社会の第一線で活躍している方々のお話を聞きました。最終日は小グループでの分かち合い、派遣礼拝で終わりました。

このセミナーを通して見えてきたもの、それはまさにこのタイトル「『…にもかかわらず』喜び、笑い、歩む一いちのち・平和・人権」でした。このセミナーは学校関係者でなくても参加できるそうですぜひ来年は参加してください。最後に、大阪高松教区報ということで、一句「人権は 被昇天に 流れ込む」
(セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校 川村直子)

十数年ぶりに参加させていただきました。多くの気づきと収穫を得られた研修会でした。

フィールドワークでは、神戸の「モスク・シナゴグ訪問」に参加。神道・仏教・キリスト教・ユダヤ教・イスラム教……と、さまざまな宗教が一つの街に存在し、他宗教も認めていることを知って驚きました。そして、そのことは、世界規模でもそれが可能であることを示してくれているように思います。

分科会では北欧の教育について触れ、印象的だったのは、「自分が動けば環境は変わるのだということ」を学校で経験している、というお話でした。食堂で提供されるじゃがいもが固すぎる、と思った生徒たちは学校側にやわらかくしてくれるように要望し、学校側はそれを聞き入れます。問題だと感じていることを友人たちと討議し、何ができるかを考え、行動に移していく。そのような活動を通して成功体験を積んだ若者は、よりよい社会を作るために行動するようになる。まさに、理想の教育です。日本の教育にもそういう視点があれば社会は変わっていくのではないのでしょうか。
(百合学院中学校・高等学校 北井香奈江)

実行委員会から事前に送られてきた空襲に関する資料に目を通し、案内担当の方や資料館の職員の方からの説明をお聞きして、実際に碑を巡ることで、当時の惨状について一層深く理解することができました。実物の焼夷弾や※破砕爆弾の破片に触れることで、その恐ろしさ、戦争が人びともたらした痛みと重みを実感し、犠牲になられた方がたのことが胸に深く刻まれ、現在も各戦地で命を落としている市民や兵士の姿が脳裏に浮かびました。

「日中戦争期における日本軍の中国への空襲の回数が、日本が受けた空襲の約6倍に及ぶ」という事実も知り、戦争の被害者としての視点だけでなく、加害者としての歴史とも向き合う必要性を改めて痛感し、平和について考えるとき、この両面に目を向けることが求められていると思います。

今回、広島や長崎、沖縄のことだけでなく、神戸や明石、姫路といった身近な地域の被害や犠牲についても知ることの大切さを強く感じました。生徒たちが戦争についての想像力を養い、さらに深く学びたいという動機付けとなるのではないかと確信し、まずは2学期の授業で、姫路の手柄山にある「太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊碑」の写真や資料を見せて戦時の状況を生徒に紹介することから始めてみたいと思います。

最後に、戦争体験者や語り部の方が減り続ける中で、教師として、次の世代に戦争と平和の大切さを伝え続ける存在でありたいと強く願い、また生徒たちにも、戦争と平和について学び続け、次世代にその思いを語り継いでくれることを期待しています。「平和を求め祈り」の一節、「平和の道具」を胸に、日常生活の中でも、憎しみのあるところに愛を生み出す人になってほしいと願います。
(愛徳学園中学校・高等学校 重 愛子)

※弾体の周囲を螺旋状の輪が巻いており、炸裂時に細片となって飛散し人馬を殺傷した。

テゼ共同体の歌 第2集

歌え神に 新しい歌 出版記念 感謝のつどい

Cantate Domino canticum novum

11/17 SUN. 16:00 ~ 18:30

■第1部 新しい歌を歌おう ■第2部 祈りのゆうべ

会場 サクラ ファミリア 聖堂
大阪高松教区 カトリックセンター

フランスにある超教派の男子修道会テゼの歌は、日本でも教派を問わず多くの人々に歌われている。今回25年ぶりに出版された歌集には、長年テゼで歌われている曲から、新たに歌われるようになった曲など、全83曲を掲載。

共催 サンパウロ 大阪宣教センター
カトリック大阪高松大司教区 サクラ ファミリア
お問合せ サクラ ファミリア f.sacra@ostk.catholic.jp 06-6225-8871

訃報



Sr. マリア・インマクラータ 下野節子(シヨファイユの幼きイエズス修道会)は、8月24日、老衰のためドムスガラシアで帰天。長崎県長崎市出身。86歳。奉獻生活59年。

初誓願宣立から50年にわたり、大阪、神戸、和歌山、高知、布施で教諭や園長として幼いいのちへの奉仕にささげた。
2009年から6年間大阪信愛修道院院長として、

更に短期大学の受付係としても奉仕した。
2020年から難病のため療養生活となり、2021年1月からドムスガラシアに入居して、温かい見守りの中で静かな祈りと療養の日々を送っていた。
今年の6月から食事が入らなくなったが、病者の塗油の秘跡に力づけられ小康状態が続いた。シスターは難病の苦しみや不自由さを人知れず耐えながらも、終始、持ち前の冷静さと判断力、小さなことにこだわらない、さっぱりとした性格でもって、嘆くことなく、信仰のうちに、与えられたいのちを最後まで燃やして、静かに御父の御許に旅立った。

来見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

日時 10/24(木) 18:30~20:00
講師 酒井俊弘補佐司教
場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり
主催 使徒職養成委員会
問 ☎06-6941-9700

サクラファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 10/21(月) 18:00~19:30 (夜の部)・10/22(火) 10:30~12:00(昼の部)
お話 サワリムットウ・スティフェン神父(徳島地区・オブレート会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「主日のみ言葉に生かされる」日曜日の聖書と典礼の福音書をテーマにして、共に学び、分かち合う

日時 10/7・11/11・12/9(月) 13:30~15:00(9~12月開講)

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべ イエス』

日時 10/9(水) 10:30~12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 10/14(月・祝)・10/28(月) 17:00~18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30

問 サクラ ファミリア ☎06-6225-8871
✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 10/5(土)~10/26(土) 4回 16:30~18:00

参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 2025年2/2(日)~2/23(日) 4回 14:00~16:00

参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎078-851-2846
✉renraku@rokko-catholic.jp

※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会

日時 10/25(金) 10:00~15:30
指導 山内十束神父

参加費 ¥3,500

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水) 10:00~12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

講座・研修会

日本カテキスタ会主催

◆第8回 大阪カテキズムを学ぶ会「キリスト者の祈り」

講師 高見三明名誉大司教(長崎大司教区)

日時 10/25(金) 10:00~11:30
場所 サクラ ファミリア

参加費 無料

◆NCK公開講座 第二バチカン公会議公文書を学ぶシリーズ9『政治と教会』

講師 高見三明名誉大司教(長崎教区)・中村倫明大司教(長崎教区)・南野森さん(九州大学法学部教授)

日時 10/25(金) 13:00~17:30
10/26(土) 10:00~12:00

場所 サクラ ファミリア

参加費 両日参加 ¥2,000・25日のみ ¥1,500・26日のみ ¥1,000

申込・問 日本カテキスタ会
✉nckkate@gmail.com

☎090-8119-4494 締切 10/15

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金) 10:00
場所 神戸学生青年センター

参加費 ¥1,000

主催 神戸国際支縁機構
問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

マリッジエンカウンター ウィークエンド◆婚姻の秘跡を生き生きと生きる

対象 夫婦・司祭・修道者
日時 10/12(土)~10/14(月・祝)
場所 聖ヨハネ病院修道会(神戸)
参加費 自由献金
申込・問 平尾 ☎078-991-5220

第10回河内キリシタン祈念祭◆「信愛の森」にて野外ミサと分かち合い

日時 10/12(土) 10:00受付開始
場所 大東教会で受付後、「信愛の森」へ(雨天時は大東教会でミサとわかちあい)
持ち物 ロザリオ・弁当
主催・問 大東教会 中川・中田 ☎072-876-5434

典礼聖歌アンサンブル(TSE)◆創立25+2記念コンサート

日時 11/23(土・祝) 13:30開演(13:00開場)
場所 今市教会
入場料 自由献金
問 代表 神馬宏美(四日市教会) ☎090-2387-4291
✉hirojmb15@gmail.com

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い

日時 第2(土) 14:00~16:00
場所 大阪YCWセンター(またはZoom)
問 レネ神父・水元 ☎072-232-8063
✉osakaycw@gmail.com
HP http://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エフファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

日時 第2(水) 10:00~12:00
場所 教区本部事務局 1階会議室
問 障がい者委員会
✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い
守秘義務と分かち合い
いつ来てもウェルカム
当日キャンセルOK
日時 第3(日) 14:00~16:00
場所 姫里集会所
参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)
申込 吉川まで
問 ☎078-583-2525
✉yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会

対象 パソコン点字に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時 第2(火) 13:30~15:00
場所 姫里集会所(奇数月) 北須磨教会(偶数月)
申込 笠松まで
問 ☎090-5661-4324
☎072-722-0271
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

手話に興味をお持ちの方へ◆聞こえない人も聞こえる人もボランティア会の見学にいらしてください

内容 聖書の学び・教区活動の手話通訳者派遣
※手話講習会ではありません
日時 第1・3・5(水) 10:00~14:00
場所 姫里集会所
主催 教区聴覚障がい者ボランティア会
問 障がい者委員会
✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会

日時 第1(土) 14:00
問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火) 13:00~14:30
問 森田 ☎079-426-5704

【お詫び】

7月号2面「小教区ブロック司教人事表」誤)徳島地区(鳴門・徳島・阿南)担当→正)徳島地区(鳴門・徳島・阿南)共同
9月号6面「高山右近祭」誤)故溝部(→正)故溝部
9月号8面「来て見なさい」誤)サムリワットウ・スティフェン神父→正)サワリムットウ・スティフェン神父
「司教予定」誤)8月→正)9月
お詫びし訂正いたします。(広報委員会)

▽大阪南地区 ※○内は現任地。
▽Frホルメント・セサル・アレクセ・M(玉造教会・助任は、甲子園教会主任: C. M. (聖ヒンセンシオの宣教会))
【その他】
▽Frファン・グース・アントアイ・O. P. (松山修道院は玉造教会・協力: O. P. (へドミニコ会))
▽Fr赤波江豊(9月16日~12月6日までフイリピン研修施設で研修)

2024年度秋 人事異動

【単本教会】▽9時
【新宮教会】▽11時半
※変更は10月第一日曜日(10月6日)でミサ時間変更

案内・報告

主日ミサ時間変更

行事等日程	
10月	
3 木	[常任司教委員会]
7 月	ロザリオの聖母 大阪高松教区 守護聖人
9 水	10時 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会
20 日	INTERNATIONAL DAY 世界宣教の日(献金)
23 水	10時半 司牧者集会
27 日	教区典礼研修会
11月	
1 金	諸聖人
2 土	死者の日
4 月	11時 教区納骨者および死者祈念ミサ(カテドラル)

10月司教予定

- 10/6 姫路地区堅信式(†S)
- 10/13 紀泉ブロック堅信式(†S)
- 10/15~16 管区司教会議(金沢・能登)(†M)(†S)
- 10/20 インターナショナルデー(†M)(†S)
- 10/21~22 全国広報担当者会議(†S)
- 10/28~11/1 広報省総会(ローマ)(†M) †M=前田万葉大司教 †S=酒井俊弘補佐司教

年間第23主日の福音朗読は、イエス様の奇跡のわざのうちの一つの物語であった。婦人された渡辺和子シスターが生前、キリスト教はご利益宗教ではないと言われていたのを思い出す。もちろんそれは、その場だけ祈れば叶うという安易なものではないということであり、私もそれはそうだよ、ね、と思っていた。ごミサの説教の中で、神があなたに起こしてくれた奇跡は何か、と問われた。ある。どう考えても神の業と思えるものがある。理不尽な現実不条理な状況、それからから実はさりげなく救われている。しかもその場では気づかず後で考えたら救いだと思える。気づくことがある。そう、あのエマオへの道のように。 徳島地区 伊丹隆司

はばたき

リスナーの方 募集中! 小さきテレジアの会

「大阪高松教区報」を音読し、データCDに録音して、大阪高松教区の視覚障害者の方々にお送りしています。データCDは、プレストーク・パソコン・MP3 対応のCD ラジカセで聞くことができます。

音読というのは、一般に認識されている朗読とは、すこし違います。書かれている内容を正確に、あまり感情をこめすぎずに、ニュースを読むアウンサーのイメージです。
問合せ 夙川教会 小さきテレジアの会
☎ 0798-22-1649
Fax 0798-34-3585
担当: 音読(デジ)山口